

# 1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年 5月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2295300046
法人名	社会福祉法人 鳳会
事業所名	グループホーム ふじトピア
所在地 (電話番号)	藤枝市時ヶ谷417-2 (054-638-5251)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年03月04日

## 【情報提供票より】(平成21年2月16日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成18年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造合金メッキ鋼板ふき 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	84,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4)利用者の概要(平成21年2月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	三倉医院 ・ 溝越歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護・訪問介護・居宅介護等を幅広く運営している。それに隣接してグループホーム「ふじトピア」があり、開設して3年目を迎えている。藤枝市の郊外に位置し、市民に親しまれている蓮華寺池公園も近い。ホーム理念として「人・自然・地域とのふれあい・・・他」を掲げ、笑顔で寄り添う介護に努力している。利用者の身体レベルが少しずつ変化してきている中で、状態に合わせた支援ができるよう、自己評価票作成の過程で生まれた「生活援助計画」の活用の取り組みが始まっている。理念に謳われた地域とのふれ合いを深めるために、運営推進会議の定期的・着実な開催が望まれる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の指摘項目については、ほとんどが改善されていた。特に「理念の共有」については、毎朝のミーティングで「今日は私はこれを意識して」という取り組み姿勢が見られた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は、自己評価・外部評価の意義を良く理解しており、今回の自己評価票作成には職員全員で取り組んでいる。そんな活動からケアプランの充実を目指した「生活援助計画」の発想が生まれ、評価を活かした新たな活動に取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議において、ホーム・利用者の状況を報告し、参加委員から率直な意見や提案を出してもらい、日々のサービスに活かすよう努めている。しかし、ホーム開設から開催は4回に留まっている。市や包括包括支援センター、地域住民、委員の理解は深い。2ヶ月に1回着実に開催されているホームも多く、年間スケジュール化等により着実に開催することを検討されたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記されている。「面会記録簿」には要望・苦情等の記入欄が設けられており、面会時や電話、日常の触れ合いの中で家族・本人の意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。法人の季刊誌が定期的に発行されているが、利用者一人ひとりの状況について詳しく知りたいと言う家族の希望があり、職員からの一言を添えた状況報告が求められている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>理念にも地域とのふれ合いを謳っており、町内会の行事(夏祭り・公民館祭り・防災訓練等)への参加の誘いにも必ず参加している。法人の行事(秋祭り等)にも、地域の方や家族の参加も多く、連携の姿が見られる。日常的には買い物途上での声掛けや挨拶等、地域との交流が図られている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念に基づき、ホーム開設時に皆で作りに上げた「人・自然・地域との触れ合いの輪、ほっこりとした雰囲気、寄り添う介護・・・」という独自の理念を定めている。	○	理念は申し分が無い。運営規程・契約書・重要事項説明書等に、地域密着型に相応しく、「地域住民との交流の下に・・・」を謳うことを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関ホール、事務所に掲示し、毎朝のミーティングで唱和し、職員は「今日は私はこれを意識して・・・」と日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内会の夏祭り(下藪田触れ合い祭り)・葉梨公民館祭り・防災訓練等への参加の誘いもあり、必ず参加している。法人の秋祭りにも、地域の方や家族の参加も多く、賑やかである。ボランティアの協力、買い物途上での声掛けや挨拶等地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を良く理解し、今回の自己評価票作成には、職員全員で取り組んでくれた。そんな活動から「生活援助計画」の発想が生まれ、評価を活かした新たな活動に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホーム・利用者の状況を報告し、参加委員から率直なご意見・提案をいただき、日々のサービスに活かすよう努めている。しかし、ホーム開設からの開催は4回に留まっている。	○	市や地域包括支援センター、地域住民、委員の理解は深い。2ヶ月に1回着実に開催されているホームも多く、年間スケジュール化等により、着実に開催することを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人全体として市との連携は良好であり、日常の報告、連絡、相談は良く行われているが、具体的なサービスの質向上に向けての取り組みは見られなかった。	○	介護教室の開催・キャラバンメイトへの取り組み等、具体的な方策を検討されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の季刊誌「ふじトピア」が定期的に発行され、金銭管理等は毎月報告されている。利用者一人ひとりの状況は、面会時や電話で報告されているが、もう少し詳しく知りたいという家族の希望がある。	○	法人として特別養護老人ホーム・デイサービス・ショートステイ・訪問介護・居宅介護支援等、多彩な活動が展開されているが、家族にはグループホーム独自の状況報告が求められている。ホーム長或いは担当職員からの一言を添えた状況報告を検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、何時でも耳を傾ける態勢にある。「面会記録簿」には要望・苦情等の記入欄が設けられており、面会時や電話、日常の触れ合いの中で家族・本人のご意見を伺い、運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を極力避けるよう、最大限の努力を図っている。止むを得ず代わる場合は、必要な範囲で説明や懇談を行い、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得に対する理解があり、施設内外の研修の機会には参加を促し、外部研修への参加は出勤扱いにて配慮している。しかし、研修結果の記録はあるが、年間の研修計画は見られなかった。	○	忙しい日常の中では、必要な人に必要な研修を受けさせるには難しい一面がある。職員の経験・資質・期待を込めたレベル分析を基に、研修の年間計画化を検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りまでは至っていないが、同業のグループホームの代表から見学や職員間研修の提案があり、相互にサービスの質向上に取り組む芽を育てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込み後には、見学や体験を重ね、十分に馴染みながら利用できるよう配慮している。希望者には管理者が利用申込者宅を訪問し、相談や聴き取りを実施している。また希望者には「お試し入所」の期間を設けている。見学や体験を重ね、馴染みながら無理なく利用できるシステムが充実している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や残存能力を良く理解し、自発的に能力を発揮できる場を提供している。利用者は職員の健康を気遣い、職員は利用者の人生経験や生活の知恵を学び、お互いに支えあい、共に暮らす相互関係が構築されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時にはアセスメント票を利用し、これまでの習慣や暮らし方、今後の希望などを詳細に聴き取りしている。また日々の関わりの中から一人ひとりの希望や意向を捉え、朝夕の申し送りでも全職員が共有しており、利用者本位のサービス実現に向けた取り組みを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント票はセンター方式を採用し、綿密に聞き取りが実施されている。また日々の気付きや問題点が反映されるように職員全員で取り組み、介護計画を作成しており、家族への説明および同意も得られていた。今年度からは「生活援助計画」の作成が開始され、より具体的な介護計画書へのアプローチとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者の交代があり、介護計画書の更新がやや遅れている。現状に即した最善の計画書作成のため、管理者は見直し手順の再構築を図り、利用者や家族、職員が一体となり定期、不定期に迅速な見直しができるよう取り組んでいる。	○	現在推進中の、計画作成、見直し手順の再構築や「生活援助計画」を早期に確立し、定期的な更新や緊急時の対応が円滑に実施され、利用者本位の効果的な計画書作成に資する事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の系列事業所との連携が充分に出来ており、行事や祭事、朝夕の散歩時には利用者が他事業所に気軽に訪問している。また大型車両の借用も可能で、外出等に有効利用されている。外来受診は原則家族対応ではあるが、ホームの機動性を活かし、受診の支援も実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは入所前からのかかりつけ医を継続できるよう配慮している。家族が多忙であれば、受診の支援も実施されており家族の信頼も厚い。ホームの提携医の受診や往診も可能となっており、適切な医療を受けられる体制を持っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や緊急時の対応については、家族と常に話し合い意見交換を重ねている。緊急時の連絡体制や、必要な医療を受けられる体制について十分な話し合いや意向の確認作業が実施されているが、ターミナルケアについては運営者や家族との意見調整が出来ていない。	○	ホームの運営と重度化は切り離す事の出来ない課題である。またターミナルケアについても、家族や地域のニーズに応じていく事が期待される。管理者はターミナルに対する指針やマニュアルを作成し、今後も運営者や家族との意見調整を重ね、ホームとしての共通認識を構築していく事が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はカンファレンス等にて、職員が常にプライバシーの保護について意識を高めるよう指導している。また職員は利用者の尊厳に配慮した対応を心がけており、さりげないイレ誘導や声かけ等、的確に実践されていた。利用者の個人情報は施錠できる事務室に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まり事を優先するのではなく、利用者のペースを見守り、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その人らしい暮らし方が実現できるよう支援している。利用者は居室で横になったり、テレビを楽しむ等自由に過ごしているが、一律のルールが出来上がっている点もある。	○	9名居れば9通りの生活リズムが考えられる。少しでも一人ひとりのリズムを尊重できる分野が広がるよう、工夫を継続されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、調理の手伝いや盛り付け、配膳や食器拭き等、役割意識が持てるよう配慮している。またホームの菜園で収穫した野菜も食卓に上っており、利用者と職員が和気藹々と会話を楽しみながら食事をしている姿が見られた。季節の外食や弁当の買出しも楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は隔日と決めてあるが、利用者の希望に合わせて対応出来るように配慮されており、利用者の大きな楽しみとなっている。また入浴を拒否する利用者に対しても、声掛けを工夫することで週3回以上の入浴を確保するよう心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	的確にアセスメントされた情報により、利用者各々に応じた楽しみの機会が提供されている。散歩や買い物、料理や洗濯、また菜園の管理等、利用者の生活歴や残存能力を活かした多様な支援が実施されている。系列事業所の行事やレクリエーション活動にも参加可能となっていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は日常的に散歩や買い物に出かけている。またドライブや季節の遠足等の行事も活発に実施されており、利用者の良い気分転換となっている。近隣には環境の良い公園があり、大勢の市民とのふれあいも出来ている。職員は外出の意義を良く理解しており、利用者、家族の評価も高い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは平屋造りで、居室の掃き出し窓から庭に出ることも出来る。防犯上の理由から、夜間は玄関と掃き出し窓には施錠しているが、日中は一切の施錠をせず、利用者が外出すれば職員が付き添う等、自由に行動している。職員全員が施錠することの弊害を良く理解していた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	系列事業所との協働にて毎月避難訓練を実施している。また町内会の防災訓練にも参加している。また緊急時の連絡体制や非常時の水や食糧、消火器等の防災機器も完備されていた。管理者は運営推進会議にて近隣住民に協力体制の呼びかけを実施しており、職員の災害に対する意識も高い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は、個別に健康管理チェック表を用いて記録されている。畑で採れた野菜を使ったり、利用者に食べたいものを聞くなどして食べる意欲を引き出し、美味しく食べる工夫をしている。	○	栄養バランスについては検討されていないので、管理栄養士等の専門家の意見も取り入れるよう希望する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂や居間のスペースは、天井も高く広々とした空間となっており、利用者はゆったりと過ごせる雰囲気である。庭の畑や飾られた花、季節に相応しい飾りつけ等からは季節感も感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族に対し、本人が馴染みの写真や家具、思い出の品等を持ち込んでもらえるよう懇請し、それぞれの居室が個性ある空間になっており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		